

令和5年度 鯨城会 運営方針

鯨城会は結成20年。今年は再出発の年にしよう。

鯨城会 会長 細野 博行 (31期地域)

鯨城会は平成15年(2003年)4月1日に発足して、今年で20年となります。発足後は鯨城会への加入率が非常に高く、数年で会員数が3500名を越えました。会員の増加とともにグラウンド・ゴルフ交歓会、公開講演会、文化祭など行事も活発化し、ボランティア活動も充実してきました。ところがこの数年は入会率が低迷し、さらにコロナ禍による学園休校の影響があり会員数は2千名ほどに減りました。原因として学園生の高齢化や有職化、また趣味の多様化が挙げられます。この縮小により人材不足におちいり、役員を長年やらざるを得ないなど運営が硬直化し課題がでてきました。私が会長職を4年も続けるのも異例のことです。



しかし高齢者の社会参加と貢献への期待はこれからも増すでしょう。そして鯨城会へのボランティア活動に対しての社会からの要請は続くでしょう。会の活動続けるためには、会員数の維持が絶対必要となります。幸いコロナ社会から脱して普通の生活が戻り、令和4年度はグラウンド・ゴルフ、公開講演会、16区フェスティバル、文化祭を実施できました。またボランティア活動も再開しました。区会でも趣味の作品展、同好会など活動が充実しています。

学園には学生も戻ってきていますので、地域ミーティングやボランティア活動を一緒に行動することで学園生にアピールできれば入会者も増えることでしょう。つねに時世に合わせた仕組みづくりをしてゆき、諸行事も多くの方が満足得られるよう見直していきましょう。

そして今年はコロナの荒波を越えて再出発の年と認識し、一致団結して精いっぱい活動しましょう。会員の皆様も健康に留意して、これからの活動へ参加下さいますをお願いします。